



特定小型原動機付自転車

連載「白書を読む」③警察白書

小型モビリティ利用者 低い法令順守意識

2025年版「警察白書」によると、24年に発生した電動キックボーデなどの特定小型原動機付自転車が関連する事故のうち、約15%が飲酒運転だった。自転車や一般原動機付

自転車（原付）と比べると割合は非常に高い。終電後に電動キックボーデで帰宅する人などが多かったとみられる。小型モビリティは手軽に移動できることが特徴の一つだが、法令順守意識が低い利用者も少なくない。改めて交通ルールの周知徹底が求められそうだ。

24年の交通事故の発生件数は23年比5・5%減の29万895件だった。死者数は同0・6%減の2663人と前年とほぼ同水準だった。人口10万人当たりの死者数を状態別で見ると「歩行中」「自動車乗車中」の割合が多い。自動車の死」事故の内容では「正



「ジャパンモビリティショー」(JMS) 2025が10月30日から11月9日まで東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された。会場では1~2年後に売り出す新型車(プロトタイプ)の展示が目立った。電気

自動車(EV)シフトの減速や中国勢の台頭、米中摩擦など、自動車産業の先行きは不透明感が漂う中、各社は現実路線に回帰したようだ。経営再建中の日産自動車は、26年度に発売予定の新型「エルグランド」を公開した。現行モデルが登場して15年超となるだけに、ユーザーが期待されていた。発売は1年ほど先となるが、商品企画本部の村智志チーフプロダクツスペシャリスト(企画責任者)はJMSの出展を通じ「お客様に『待っていてください』というメッセージを届けたい」と語った。

世界初公開となるホンダの小型SUV「ゼロアルファ」は、次世代EV「ゼロシリーズ」のエンタリーモデルとして27年度に国内で発売す

る。同社はまた、AセグメントのEV「スパーク」も26年から日本を皮切りにアジアや英仏に投入する計画だ。国内メーカーで唯一、脱エンジンを宣言したホンダ。量販を狙ったエンタリーモデルはEV普通の試金石となる。

スズキの「ビジョンe-スカイ」は、26年度に販売する軽乗用EVのコネセプトモデルだ。航続距離は270キロ以上。日産「サクラ」(N80キロ)よりも長く、ホンダ「N

IONe-e:(エヌエフシイー)」(295キロ)よりは短い。『ちょうど良い軽EV』を自指す。比亚迪(BYD)の軽EVも含め、動向が注目される。

新たに独立したブランドとして展開する「センチュリリー」をはじめ、トヨタ自動車も、市販を来年に控えた

「ランドクルーザー(ランクル)F

J」を初公開した。ラダーフレーム

を採用する本格オフロード車のラン



世界初公開のホンダ「ゼロアルファ」はゼロシリーズのエンタリーモデル

各社、現実路線に回帰

「ジャパンモビリティショー」(JMS) 2025が10月30日から11月9日まで東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された。会場では1~2年後に売り出す新型車(プロトタイプ)の展示が目立った。電気自動車(EV)シフトの減速や中国勢の台頭、米中摩擦など、自動車産業の先行きは不透明感が漂う中、各社は現実路線に回帰したようだ。経営再建中の日産自動車は、26年度に発売予定の新型「エルグランド」を公開した。現行モデルが登場して15年超となるだけに、ユーザーが期待されていた。発売は1年ほど先となるが、商品企画本部の村智志チーフプロダクツスペシャリスト(企画責任者)はJMSの出展を通じ「お客様に『待っていてください』というメッセージを届けたい」と語った。

世界初公開となるホンダの小型SUV「ゼロアルファ」は、次世代EV「ゼロシリーズ」のエンタリーモデルとして27年度に国内で発売す

る。同社はまた、AセグメントのEV「スパーク」も26年から日本を皮切りにアジアや英仏に投入する計画だ。国内メーカーで唯一、脱エンジンを宣言したホンダ。量販モデルに対する期待は高い。

電気自動車(EV)や自動運転と

いた先進技術を軸としたコンセプトカーは影を潜め、各社の強みやブランディングイメージを具体化した出展車

が目立った。今回公開されたコンセ

プトカーのパワートレインは多様化

した。環境負荷の低減は各社共通の

テーマだが、そのアプローチ手法は

ブランドイメージや得意な技術とも

リンクするだけに、より自動車産業

の実態を投影したショーに回帰したとも言えそうだ。

「しんらい」と「あんしん」をお届けします。
北自共の総合自動車共済・自賠責共済

全道に安心のサービス拠点

示談交渉サービス

相手方との示談交渉や書類作成など一貫して対応

充実のロードサービス

24時間365日対応・等級に影響なし

顧問弁護士

訴訟対応への協力体制で事故解決へ



あんしん・ゆとり・たすけい みなさまのカーライフをサポートします!!
北海道自動車共済協同組合

〒065-0030 札幌市東区北30条東1丁目3-2



011-721-5233

電話の受付時間 平日 9:00~17:15

FAX: 011-721-0801

<https://www.hokujikyo.jp>

新しい技術と信用のトップメーカー

自動車ナンバープレート

小松自動車工業株式会社

札幌営業所
及工場

札幌市東区北30条東1丁目1-1
〒065-0030 電話 011-752-8592(代表)

本社
及工場

東京都品川区東品川4丁目8番12号
〒140-0002 電話 03-3474-0211(代表)

